

はじめに

冬の冷たさがようやく和らぎ、春を実感する季節となりました。今年も、年間の業務を所報として取りまとめる時期となりました。私自身、所長としての着任から2年目を迎え、日々の業務へ向き合う姿勢を新たにできる機会でもあり、この1年間でどれだけ社会に役立ったかを顧みる時期でもあります。

当研究所では、県内の保健・衛生分野および環境分野における中核的な試験研究機関として、感染症、食品、環境に関する試験検査や調査研究に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の対応が落ち着きを見せる中、これまで中断や縮小を余儀なくされていた業務を一つひとつ再開しつつ、最近、注目が高まっている薬剤耐性菌（AMR）や有機フッ素化合物（PFAS）など新たな課題へも対応しています。業務再開には依然として道半ばの部分はあるものの、本来の姿をかなり取り戻しつつあると感じています。

また、団塊世代の大量退職に伴う技術伝承、専門性の維持向上などの課題も引き続き存在しています。当研究所では「研究推進プロジェクトチーム」による若手職員の育成や研究活動の活性化に加え、国の研究機関や他県及び県内試験研究機関との連携強化に取り組み、より質の高い研究体制に繋がるよう努めています。

近年、社会状況の変化等に伴い、リスクやハザードが不明であるとか、規制するほどのリスクがあるのかどうか必ずしも明らかでないような事柄に対し、県として、どう向き合っていくのかといったことが問われてきています。科学的根拠に基づく施策の展開や県民の皆様への適切な情報発信に向け、当所の果たすべき役割は、今後も一層重要性を増してくるものと考えているところです。

本所報は、主に令和6年度（2024年度）に職員が取り組んだ試験検査および調査研究の成果をとりまとめたものです。今後も、県民の皆様の声に応えられるよう、引き続き、関係各位の心からのご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年（2026年）3月

熊本県保健環境科学研究所
所長 榮田 智志